

有効微生物群(E.M)エキス 乳酸Bレポート

EM菌というものを聞いたことがあるでしょう。EMとはEffective Micro-organismsの略、日本語では有効微生物群という意味。このEMを含んだ飲料である「乳酸B」についてのお話しをします。

「乳酸B」はビフィズス菌をはじめとする数多くの乳酸菌と酵母からなる有効微生物群(E.M)が作り出すエキスで、従来のいわゆる乳酸菌飲料とは、一種類の菌ではなく数多くの菌を共生培養して作る。生菌そのものは含まずEMの代謝産物である分泌液を使うことが違ってきます。

日本大学医学部で、実際の治療に「乳

酸B」を活用する一方、分析にも取り組んでいる荒島康友先生によると、人間の腸のなかには、100種類、約100兆もの細菌がバランスをとって常在し、この環境のことを専門用語で腸内細菌叢と呼びます。これらの細菌のなかには乳酸菌のような有用菌、大腸菌などの腐敗菌に代表される有害菌、そしてどちらともいえない菌がいて、それぞれが一定のバランスを保ちながら生きているのです。

「乳酸B」はそのバランスを調整する役割を果たしていると考えられますが、どうもそれだけでは説明できないパワーがあるらしいのです。健康な人の腸

合には、腸内細菌叢のバランスはかなり安定した状態にあります。しかしその人の生理や食べ物・薬物・気候・感染・ストレス、各種疾病などの条件により、そのバランスに任いが生じてくるのです。(たとえば、老化が進むにしたがい乳酸菌の量は減り、逆に有害菌の量は激増する)

腸内細菌叢の構成バランスは、その人の栄養状態や生理機能に大きな影響を与え、有害菌が優勢になれば下痢や便秘はもちろ、長期的には肝臓、腎臓の障害、動脈硬化、高血圧、がん、老化促進の原因になる可能性が強いといえるでしょう。

乳酸菌などの有用菌は、腸のなかで消化や吸収を助けているだけでなく、食べ物に添加された発がん物質を無毒化して排出したり、有害菌がさまざまな毒素を作り出すのを抑えたりと、腸内の環境浄化に大きく貢献しています。腸内に有用菌優勢、有害菌劣勢のバランスを維持することが健康管理にとつてきわめて重要なのです。

確認された がん抑制傾向

日本大学医学部の池田助教授が日本微量元素学会において発表した動物実験の報告によると、マウスの背中にがん細胞を移植したあとに「乳酸B」を与えると、がんの増殖を抑制する傾向がみられたという。池田助教授は「興味深いのは「乳酸B」をマウスに与えると、血液中の亜鉛やマグネシウムといった生体機能に欠かせない微量元素に異動がみられること。微量元素は人

間の代謝系で大きな動きを担っていますから腸内細菌叢の改善とは別に、がんの抑制のような作用を行なうメカニズムを生み出している可能性がある」と語っています。

そして「乳酸B」を飲んだ場合について前出の荒島先生は血液中にビタミンH(ビオチン)という物質が増加することを、実験によって確認しました。ビオチンは乳酸菌の仲間を増やす作用を持つ物質で「乳酸B」の効果は常在菌のいる部位に特異的に現れるのではないかと、また「乳酸B」そのものには強い殺菌効果があるわけではないことから、なんらかの未知の生理活性物質が入っている作用により有用菌を活性化し、人間の体調を改善しているのではないかと考えられます。

「乳酸B」にはまだ未知の部分がたくさんあります。研究を進めるとともに臨床例を重ねていくことで、大きな可能性がみえてくるかもしれません。

「乳酸B」の今後研究対象として想定される項目

検査項目	現在	今後
消化器系	整腸(便秘、下痢)	H.pylori(胃潰瘍) MRSA腸炎
皮膚科	アトピー 湿疹	
耳鼻科	外耳炎 咽喉頭炎	扁桃腺炎
歯科	歯肉炎	口内炎
二日酔		アセトアルデヒド測定アルコール負荷試験(ヒト、マウス)
食品	(保存期として、味覚改善品として)	
実験	1. ヒト 10ml/日×10日間による生化学データの変化 2. マウス 移植腫瘍に対する効果	